

堀越城とは

堀越城は、弘前藩の初代藩主である津軽ためのお為信おおうらが、最後の居城とした城です。為信がこだい大浦城（弘前市五代）から居城を移した1594年（文禄3年）から、二代藩主信枚のぶひらが、高岡城（のちの弘前城）へ居城を移すまでの約17年間、津軽の中心として機能しました。



津輕為信と堀越城

文献上で「堀越」の名が現れるのは、南北朝時代の
1337年(建武4年)のことで、「堀越に^{けんむ}脩^{たて}館(館)を築く」と
記されていますが、この「脩」の詳細は不明です。

堀越が再び文献に現れるのは、16世紀後半、「南部うきょうのすけ右京亮」為信、後の津軽為信が、当時津軽を支配していた南部氏から独立を図る過程においてです。

1731年（享保16年）、弘前藩によって編さんされた『津軽一統志』によると、1571年（元亀2年）、為信は堀越城から石川城主南部高信を奇襲、攻め落としましたとされます。その後、為信は大光寺城（平川市）や浅瀬石城（黒石市）などを攻略、津軽の支配を進め、1591年（天正19年）頃までには、豊臣秀吉から大名として認められたようです。

1594年（文禄3年）、為信は大浦城から堀越城へと本拠を移転します。現在残る堀越城の構造は、この移転時に、為信が行った大改修によって築かれたものと考えられています。

これまでの調査成果から、堀越城は、城の中心に城主の住む本丸があり、その周囲を家臣などが住む二之丸、三之丸、外構などの曲輪が取り囲む、求心的な構造を示すことが判明しています。また、本丸からは礎石建物、三之丸からは掘立柱建物などが確認されており、城内に多くの建物が建ち並んでいたこともわかりました。なお、二之丸ではたくさんの鍛冶炉が並んで見つかることから、城内には武士だけでなく鉄や銅の製品をつくる職人もいたようです。



堀越城跡ガイダンス施設 —旧石戸谷家住宅—

堀越城跡東側に移築された旧石戸谷家住宅は、かつて弘前市街地北西の浜の町に所在した、津軽を代表する豪農・石戸谷家の主屋です。

住宅のかつてのウマヤに整備した展示エリアでは、為信の城「堀越城」を、6つのコーナーで紐解きます。また、エントランスホールであるトグチには、堀越城の復元模型、ニワには為信と堀越城の紹介映像を放映する映像コーナーと、様々な歴史体験ができるワークスペースを整備しています。



堀越城跡ガイダンス 展示イメージ図

現代の築城

堀越城跡は、1985年（昭和60年）に国指定史跡となりました。その後、弘前市は1998～2013年（平成10～25年）に発掘調査を実施、この成果を踏まえて、2012～2019年（平成24～令和元年）に整備工事を実施し、2020年（令和2年）4月に全面公開を開始しました。整備では、1594年（文禄3年）の為信による大改修後の堀越城の姿を基準とし、崩落していた土塁を本来の

高さに、埋没していた堀を再掘削で本来の深さに復元するなど、主に土木事業の痕跡を復元しています。また、本丸の礎石建物は復元礎石により、その他の掘立柱建物跡は柱位置の表示により、建物範囲を示しました。



発掘時の本丸東門跡（2012年）



整備後の本丸東門跡（2017年）

アクセスマップ



お城を見学される みなさまへ

見学の際は、ルールとマナーを守り、周辺にお住まいの方へのご配慮を。



ご案内

- 堀越城跡ガイダンス施設（旧石戸谷家住宅）
開館期間 4月17日～11月23日
開館時間 午前9時～午後4時
○堀越城内 通年開放（冬季は除雪しません）

お問い合わせ先

- 4月17日～11月23日
史跡堀越城跡管理事務所
（青森県弘前市大字川合字岡本 160-1 旧石戸谷家住宅内）
TEL 0172-26-2950
- 11月24日～4月16日（冬季）
弘前市教育委員会文化財課
（青森県弘前市大字賀田一丁目 1-1 弘前市岩木庁舎 3階）
TEL 0172-82-1642

国指定史跡

津軽氏城跡

堀越城跡

弘前藩初代藩主
津軽為信

最後の居城

